科目コード N206		
接業科目名 (英文) Public Health 課業室等 1102	科目コード	N206
接業科目名 (英文) Public Health 課業室等 1102	授業科目名	公衆衛生学
議義室等		
学科 対象学年 2年 開講学期 が修・選択の別 がある。 の場を、矢病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハ とじリテーションよで含めた包括的医療が望まれている。公衆衛生学は、こした は実と疾病のがいまなになく、集団として所明し、いかにしてよりよいに保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。 臨床医学とは異なった。公衆衛生学のはのの見方、予防医学の重要性についてデジロ理解するためになどの対象がのである。 は、経験といの表生でのの見方、予防医学の重要性についてデジロ理解するためになどの表していてでは、なの対象がの変遷について理解し、説明できる。 3. 人の理性が、説明できる。3. 人の選生から学校・職場そして老人保健に至る、人の生産を助したといて理解しまいでもとして、それぞれに関連した法令・制度についても理解が訳が、を説明を注をもいてはなく関連した法令・制度についても理解が、説明できる。 3. 体験によりできる。3. 人の選生がら行きでいて体系的に理解し、説明でもる。4. 糸の発達・は組みについて理解し、説明でもる。5. 産業現場における有言要因人の場案と健康が響について理解し、い球規模の環境問題について説明できる。6. 高学年時で学習する基礎として、あるいは将来産業保健スタッフの一角を担うものとして、産業保健学機関衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明で、変楽保健学機関衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明で、変楽保健学機関がは、の意義・仕組みについて対解を担め、でも担対の表に対して、表に対し、表に対して、表に対して、表に対して、表に対し、表に対して、表に対し、表に対して、表に対して、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し		
対象学年 2年 開講学期 前学期 20修 選択の別 20修 選択の別 30 時間数 30 時間数 30 時間数 30 時間数 30 野子ノブロマ ②看DP-2 ②種CP-3、〇種CP-5、△種CP-1 学科 対象学年 開講学期 20修・選択の別 単位数 時間数 時間数 時間数 55間数 52 時間数 53 日本 54 年 54	学科	
開議学期 必修・選択の別 単位数 1 時間数 30 該当子イブロマ ②看DP-2 該当コンピテンス ②看DP-2 該当コンピテンス ②看CP-3、〇看CP-5、△看CP-1 対象学年 開議学期 必修・選択の別 単位数 時間数 該当かり 取代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハビリテーションまで含めた包括的医療が望まれている。公衆衛生学は、こうした健康と疾病の成り立ちを個人単位ではなく、集団として解明し、いかにしてよりよい保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。臨床医学とは異なった、公衆衛生学的なものの見方、予防医学の重要性について学び理解する。 「接業の到達目標 (学修効果) 1. 健康の概念について理解し、健康を保持・増進させるための社会的施策の変遷について理解し説明できる。 2. 人の健康を実現としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法を理解し、説明できる。 3. 人の選集を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法を理解し、説明できる。 4. 輸入感染症・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防についても理解が関連について理解し、その対策・予防についても理解が関連について連解し、表別できる。 5. 産業現場における有害要因人の曝露と健康影響について理解し、その対策・で加て、第単に対する音響因人の曝露と健康影響について理解し、その対策・で加て、第単に対する音響因への曝露と健康影響について理解し、その対策・で加て、第単に対する音響因への曝露と健康影響について理解し、その対策について、第単に対する音響の人の曝露と健康影響について理解し、その対策について、第単に対する音を図への曝露と健康影響について理解し、その対策について、第単に対する音を図への曝露と健康影響について理解し、をの対策について、第単記録度である。 5. 産業現像に対する音響として、あるいは将来産業保健スタッフの一員を担うものとして、産業保健・労働衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかわりについて理解し、地球規模の環境問題について関係できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかわりについて理解し、地球規模の環境問題について関係できる。 7. 日々の生活と自分達を取り着く環境とのかわりに対する。 7. 日々の生活と自分達を取り着く環境として、あるいは将来産業保健のよりを担望を対すると思いを表します。 7. 日々の生活と自分達を取り着く環境として、あるいは将来産業保健のよりに対域を発情の表しまする。 7. 日々の生活として、第一は、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対し、1000年に対し、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対しなが対しないのでは、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対し、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対し、1000年に対して、1000年に対しで、1000年に対して、1000年に対して、1000年に対しで、1000年に対して、1000		
必修・選択の別		
単位数 30 該当フィブロマ ◎看DP-2 該当コンピテンス ◎看CP-3、〇看CP-5、△看CP-1 学科 対象学年 開講学期 砂修・選択の別 単位数 時間数 該当アイブロマ 該当コンピテンス 担当教員 教務部長 現代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハ ピリテーションス 担当教員 現代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハ ピリテーションス 担当教員 現代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハ ピリテーションス 大き は は なく、集団として 解則し、いかにしてより よい保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。臨床医学とは異なった、公衆衛生学的なものの見方、予防医学の重要性について学び理解する。 (学修効果) 「・健康の概念について理解し、健康を保持・増進させるための社会的施策の変遷について理解し、説明できる。 2、人の健康を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法を理解し、説明できる。 3、人の健康を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法を理解説のこかにできる。 4、輸入感染症・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防についても理解し、説明できる。 4、輸入感染症・再興感染症・育事要因への曝露と健康影響について理解し、その対策・予防についても理解し、説明できる。 5。産業現場における有書要因への曝露と健康影響について理解し、その対策・予防についても理解し、説明できる。 5。産業現場できる。 4、輸入感染症・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防についても理解し、説明できる。 7、日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、説明できる。 7、日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境関値について説明できる。 7、日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかわりについて理解し、地球規模の環境関値について説明できる。 7、日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかわりについて理解し、地球規模の環境関値について説明できる。 7、日本の生活と自分達を取り着に対しているのでは、対しているのでは、対しているのでは、対しないのでは、はないのでは、対しないのでは、はないのでは、対しないのでは、はな		
時間数 該当ティブロマ 該当フィブロマ 該当フィブロマ 対象学年 開講学期 必修・選択の別 単位数 時間数 該当コンピテンス 担当教員 授業の概要 現代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハ とリテーションまで含めた包括的医療が望まれている。公衆衛生学は、こうした 健康と疾病の成り立ちを個人単位ではなく、集団として解明し、いかにしてより よい保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。臨床医学とは なった、公衆衛生学的なものの見方、予防医学の重要性について学び理解する。 授業の到達目標 (学修効果) 1.健康の概念について理解し、健康を保持・増進させるための社会的施策の変遷 について理解し説明できる。。 2.人の健康を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法 を理解し、説明できる。。 3.人の誕生から学校・職場そして老人保健に至る、人の生涯を通じた保健衛生上 の問題点について理解するとともに、それぞれに関連した法令・制度についても 理解説明できる。 4.輸入感染症・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防についても理解説明できる。 5. 産業現場における有害要因への曝露と健康影響について理解し、その対策・でいていて可能できる。 5. 産業現場における有害要因への曝露と健康影響について理解し、その対策・で動していても理解における有害要因への曝露と健康影響について理解し、その対策・で動していていてを選挙を使いて、あるいは将来産業保健スタッフの一員を担うものとして、産業保健・労働衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の 環境問題について建解し、地球規模の 環境問題について登解し、地球規模の 環境問題について対解できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の 環境問題について登録により、一部は対策を を対象がある。 第巻時間30時間できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の 環境問題について登録により、一部は関係とのかかわりについて理解し、地球規模の 環境問題について登録により、一部は関係とのがある。 平野かよ子、他編「ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障②公衆衛生」 (メディカ出版) 発行 2022年12月 158N 978-4-8404-7836-6		X01 5 1
該当丁ィブロマ		30
図者CP-3、○看CP-5、△看CP-1 学科 対象学年 開講学期 必修・選択の別 単位数 時間数 該当ディブロマ 該当ディブロマ 該当ディブロマ 該当ディブロマ 該当・ 類代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハ ビリテーションまで含めた包括的医療が望まれている。公衆衛生学は、こうした 健康を疾病の成り立ちを個人単位ではなく、集団として解明し、いかにしてより よい保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。臨床医学とは異 なった、公衆衛生学的なものの見方、予防医学の重要性について学び理解する。 【業の到達目標 (学修効果) 1. 健康の概念について理解し、健康を保持・増進させるための社会的施策の変遷 について理解し説明できる。 2. 人の健康を集団としてとらえ疫学の視点から理解するために疫学の基礎的手法 を理解し、説明できる。 3. 人の誕生から学校・職場そして老人保健に至る、人の生涯を通じた保健衛生上 の問題点について理解するとともに、それぞれに関連した法令・制度についても 理解説明できる。 4. 輸入感染症・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防についても理解し、説明できる。 5. 症業現場における有害要因への曝露と健康影響について理解し、その対策についても理解し、説明できる。 6. 高学年時で学習する基礎として、あるいは将来産業保健スタッフの一員を担うものとして、産業保健・労働衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について記録を表記は験(80%)で60点以上を合格とする。 平野かよ子、他編「ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障②公衆衛生」 (メディカ出版) 発行で2022年12月 ISBN 978-4-8404-7836-6		
学科		
対象学年 開講学期 必修・選択の別 単位数 時間数 該当フィブロマ 該当コンピテンス 担当教員 現代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハ ビリテーションまで含めた包括的医療が望まれている。公衆衛生学は、こうした 健康と疾病の成り立ちを個人単位はなく、集団として解明し、いかにしてより よい保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。臨床医学とは異 なった、公衆衛生学的なものの見方、予防医学の重要性について学び理解する。 授業の到達目標 (学修効果) 1. 健康の概念について理解し、健康を保持・増進させるための社会的施策の変遷 について理解し、説明できる。 2. 人の健康を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法 を理解し、説明できる。 3. 人の誕生から学校・職場そして老人保健に至る、人の生涯を通じた保健衛生上 の問題点について理解するとともに、それぞれに関連した法令・制度についても 理解説明できる。 4. 輸設整理・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防につ いても理解し、説明できる。 5. 産業現場における有書要囚への曝露と健康影響について理解し、その対策につ いても理解し、これて理解し、での関係主ので表別をである。 6. 高学年時で学習する基礎として、あるいは将来産業保健スタッフの一員を担う ものとして、産業保健・労働衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の 環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の 環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の 環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の 環境問題について記述を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を	談ヨコノロナノス 一	◎信しところ、○信しところ、△信しとこ
開講学期 必修・選択の別 単位数 時間数 該当丁ィブロマ 該当コンピテンス 担当教員 授業の概要 現代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハレビリテーションまで含めた包括的医療が望まれている。公衆衛生学は、こうした健康と疾病の成り立ちを個人単位ではなく、集団として解明し、いかにしてよりよい保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。臨床医学とは異なった、公衆衛生学的なものの見方、予防医学の重要性について学解する。 (字修効果) 1. 健康の概念について理解し、健康を保持・増進させるための社会的施策の変遷(こついて理解し説明できる。 2. 人の健康を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法を理解し、説明できる。 3. 人の選生から学校・職場そして老人保健に至る、人の生涯を通じた保健衛生上の問題点について理解するとともに、それぞれに関連した法令・制度についても理解説明できる。 4. 輸入感染症・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防についても理解し、説明できる。 5. 産業解し、説明できる。 6. 高学年時で学習する基礎として、あるいは将来産業保健スタッフの一員を担うものとして、産業保健・労働衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明できる。 6. 高学年時で学習する基礎として、あるいは将来産業保健スタッフの一員を担うものとして、産業保健・労働衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の報境問題について説明できる。 予習復習の所要時間 議義時間30時間(2時間×1コマ×15回)・予習・復習15時間 参加の姿勢(20%)、筆記試験(80%)で60点以上を合格とする。 平野かよ子、他編「ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障②公衆衛生」(メディカ出版)発行 2022年12月 ISBN 978-4-8404-7836-6	子件 社会兴生	
遊修・選択の別 単位数 時間数 該当ディブロマ 該当コンピテンス 担当教員	刈家子牛	
単位数 時間数		
時間数 該当コンピテンス 担当教員 授業の概要 現代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハ ピリテーションまで含めた包括的医療が望まれている。公衆衛生学は、こうした 健康と疾病の成り立ちを個人単位ではなく、集団として解明し、いかにしてより よい保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。臨床医学とは異 なった、公衆衛生学的なものの見方、予防医学の重要性について学び理解する。 授業の到達目標 (学修効果) 1. 健康の概念について理解し、健康を保持・増進させるための社会的施策の変遷 について理解し説明できる。 2. 人の健康を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法 を理解し、説明できる。 3. 人の健康から学校・職場そして老人保健に至る、人の生涯を通じた保健衛生上 の問題点について理解するとともに、それぞれに関連した法令・制度についても 理解説明できる。 4. 輸入感染症・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防についても理解し、説明できる。 5. 産業現場における有害要因への曝露と健康影響について理解し、その対策についても理解し、これても理解し、説明できる。 6. 高学年時で学習する基礎として、あるいは将来産業保健スタッフの一員を担う ものとして、産業保健・労働衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明で きる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の 環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の 環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の 環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の 環境問題について説明できる。 第2015時間 参加の姿勢(20%)、筆記試験(80%)で60点以上を合格とする。 平野かよ子、他編「ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障② 公衆衛生」 (メディカ出版) 発行 2022年12月 ISBN 978-4-8404-7836-6		
該当ディブロマ 該当コンピテンス 担当教員 授業の概要 現代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハビリテーションまで含めた包括的医療が望まれている。公衆衛生学は、こうした健康と疾病の成り立ちを個人単位ではなく、集団として解明し、いかにしてよりよい保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。臨床医学とは異なった、公衆衛生学的なものの見方、予防医学の重要性について学び理解する。 「授業の到達目標((学修効果) 1. 健康の概念について理解し、健康を保持・増進させるための社会的施策の変遷について理解し説明できる。 2. 人の健康を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法を理解し、説明できる。 3. 人の誕生から学校・職場そして老人保健に至る、人の生涯を通じた保健衛生上の問題点について理解するとともに、それぞれに関連した法令・制度についても理解説明できる。 4. 輸入感染症・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防についても理解し、説明できる。 5. 産業現態における有害要因への曝露と健康影響について理解し、その対策についても理解し、説明できる。 6. 高学年時で学習する基礎として、あるいは将来産業保健スタッフの一員を担うものとして、産業保健・労働衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかわりに対して理解し、地球規模の環境問題について対して理解し、地球規模の環境問題について理解し、大原発に対し、大原発に対して理解し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対して理解し、大原発に対して理解し、大原発に対し、大原発に対して対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対して関係が対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発は対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発は対し、大原発は対し、大原発に対し、大原発に対し、大原発は、大原発に対し、大原発に対し、大原発は、大原発は、大原格に対し、大原発は、大原発は、大原発は、大原発を表し、大原発に対し、大原発は、大原発は、大原発は、大原発に対し、大原発は、大原発は、大原発は、大原発は、大原発は、大原発は、大原発は、大原発は	里位数	
数務部長 現代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハビリテーションまで含めた包括的医療が望まれている。公衆衛生学は、こうした健康と疾病の成り立ちを個人単位ではなく、集団として解明し、いかにしてよりよい保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。臨床医学とは異なった、公衆衛生学的なものの見方、予防医学の重要性について学び理解する。		
担当教員 教務部長 現代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハビリテーションまで含めた包括的医療が望まれている。公衆衛生学は、こうした健康と疾病の成り立ちを個人単位ではなく、集団として解明し、いかにしてよりよい保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。臨床医学とは異なった、公衆衛生学的なものの見方、予防医学の重要性について学び理解する。 「授業の到達目標(学修効果) 「・健康の概念について理解し、健康を保持・増進させるための社会的施策の変遷について理解し説明できる。 2. 人の健康を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法を理解し、説明できる。 3. 人の誕生から学校・職場そして老人保健に至る、人の生涯を通じた保健衛生上の問題点について理解するとともに、それぞれに関連した法令・制度についても理解説明できる。 4. 輸入感染症・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防についても理解説明できる。 5. 産業現場における有害要因への曝露と健康影響について理解し、その対策についても理解し、説明できる。 6. 高学年時で学習する基礎として、あるいは将来産業保健スタッフの一員を担うものとして、産業保健・労働衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7. 日本の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7. 日本の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について現解し、地球規模の環境問題について理解し、地球規模の環境問題については、 1. 日本の事が表します。 1. 日本の事が表します。 1. 日本の事が表します。 1. 世界の事が表します。		
授業の概要 現代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見、リハビリテーションまで含めた包括的医療が望まれている。公衆衛生学は、こうした健康と疾病の成り立ちを個人単位ではなく、集団として解明し、いかにしてよりよい保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。臨床医学とは異なった、公衆衛生学的なものの見方、予防医学の重要性について学び理解する。 授業の到達目標 (学修効果) 1. 健康の概念について理解し、健康を保持・増進させるための社会的施策の変遷について理解し説明できる。 2. 人の健康を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法を理解し、説明できる。 3. 人の誕生から学校・職場そして老人保健に至る、人の生涯を通じた保健衛生上の問題点について理解するとともに、それぞれに関連した法令・制度についても理解説明できる。 4. 輸入感染症・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防について理解がし、説明できる。 5. 産業現場における有害要因への曝露と健康影響について理解し、その対策について別記できる。 6. 高学年時で学習する基礎として、あるいは将来産業保健スタッフの一員を担うものとして、産業保健・労働衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 ア野かよ子・他編「ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障②公衆衛生」(メディカ出版)発行 2022年12月 ISBN 978-4-8404-7836-6	該当コンピテンス	
ピリテーションまで含めた包括的医療が望まれている。公衆衛生学は、こうした 健康と疾病の成り立ちを個人単位ではなく、集団として解明し、いかにしてよりよい保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。臨床医学とは異なった、公衆衛生学的なものの見方、予防医学の重要性について学び理解する。 「健康の概念について理解し、健康を保持・増進させるための社会的施策の変遷について理解し説明できる。 2.人の健康を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法を理解し、説明できる。 3.人の健康を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法を理解し、説明できる。 4.輸入感染症・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防について理解説明できる。 5.産業現場における有害要因への曝露と健康影響について理解し、その対策についても理解し、説明できる。 6.高学年時で学習する基礎として、あるいは将来産業保健スタッフの一員を担うものとして、産業保健・労働衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明できる。 7.日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7.日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 予習復習の所要時間 講義時間30時間(2時間×1コマ×15回)+予習・復習15時間 成績評価方法 参加の姿勢 (20%)、筆記試験(80%)で60点以上を合格とする。平野かよ子、他編「ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障②公衆衛生」(メディカ出版)発行 2022年12月 ISBN 978-4-8404-7836-6	担当教員	
(学修効果) について理解し説明できる。 2. 人の健康を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法を理解し、説明できる。 3. 人の誕生から学校・職場そして老人保健に至る、人の生涯を通じた保健衛生上の問題点について理解するとともに、それぞれに関連した法令・制度についても理解説明できる。 4. 輸入感染症・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防についても理解し、説明できる。 5. 産業現場における有害要因への曝露と健康影響について理解し、その対策について列記できる。 6. 高学年時で学習する基礎として、あるいは将来産業保健スタッフの一員を担うものとして、産業保健・労働衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。 予習復習の所要時間 講義時間30時間(2時間×1コマ×15回)+予習・復習15時間 参加の姿勢(20%)、筆記試験(80%)で60点以上を合格とする。 平野かよ子、他編「ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障② 公衆衛生」(メディカ出版)発行 2022年12月 15BN 978-4-8404-7836-6	授業の概要	ビリテーションまで含めた包括的医療が望まれている。公衆衛生学は、こうした 健康と疾病の成り立ちを個人単位ではなく、集団として解明し、いかにしてより よい保健サービスを提供できるかを研究する医学の分野である。臨床医学とは異
成績評価方法参加の姿勢(20%)、筆記試験(80%)で60点以上を合格とする。教科書平野かよ子、他編「ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障②公衆衛生」(メディカ出版)発行 2022年12月 ISBN 978-4-8404-7836-6参考書厚生統計協会編「国民衛生の動向」最新版(財団法人厚生統計協会)	(学修効果)	について理解し説明できる。 2. 人の健康を集団としてとらえ疫学的視点から理解するために疫学の基礎的手法を理解し、説明できる。 3. 人の誕生から学校・職場そして老人保健に至る、人の生涯を通じた保健衛生上の問題点について理解するとともに、それぞれに関連した法令・制度についても理解説明できる。 4. 輸入感染症・再興感染症を含む感染症動向について理解し、その対策・予防についても理解し、説明できる。 5. 産業現場における有害要因への曝露と健康影響について理解し、その対策について列記できる。 6. 高学年時で学習する基礎として、あるいは将来産業保健スタッフの一員を担うものとして、産業保健・労働衛生の意義・仕組みについて体系的に理解し説明できる。 7. 日々の生活と自分達を取り巻く環境とのかかわりについて理解し、地球規模の環境問題について説明できる。
	成績評価方法	参加の姿勢(20%)、筆記試験(80%)で60点以上を合格とする。 平野かよ子、他編「ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障② 公衆衛生」 (メディカ出版) 発行 2022年12月
	参考書	厚生統計協会編「国民衛生の動向」最新版(財団法人厚生統計協会)

令和6年度

授弟	禁計画(講義・	演記	当・実行	3 3)	非常勤	講師(学内:1	学	外:2)
回	年月日	曜日	時限	授業項目	授業の形態	講師	非常勤	備考
1	R6. 4. 3	水	Ш	公衆衛生とは 予習 教科書「公衆衛生」第1章を通読 復習 講義内容の復習	講義	財津 將喜	1	
2	R6. 4. 10	水	Ш	人口・保健統計 予習 教科書「公衆衛生」第4章を通読 復習 講義内容の復習	講義	財津 將喜	1	
3	R6. 4. 17	水	Ш	疫学の理解と活用 予習 教科書「公衆衛生」第4章を通読 復習 講義内容の復習	講義	財津 將喜	1	
4	R6. 4. 24	水	Ш	地域保健と保健行政 予習 教科書「公衆衛生」第2章を通読 復習 講義内容の復習	講義	原賀・美紀		
5	R6. 5. 1	水	Ш	母子保健 予習 教科書「公衆衛生」第6章を通読 復習 講義内容の復習	講義	原賀 美紀		
6	R6. 5. 15	水	Ш	成人保健と健康増進対策 予習 教科書「公衆衛生」第8章を通読 復習 講義内容の復習	講義	加藤 貴彦	2	
7	R6. 5. 22	水	Ш	がん対策・難病対策 予習 教科書「公衆衛生」第11章を通読 復習 講義内容の復習	講義	加藤 貴彦	2	
8	R6. 5. 29	水	Ш	高齢者福祉・保健と介護保険 予習 教科書「公衆衛生」第7章を通読 復習 講義内容の復習	講義	仲野 宏子		
9	R6. 6. 5	水	Ш	障害者保健・精神保健 予習 教科書「公衆衛生」第10章を通読 復習 講義内容の復習	講義	仲野 宏子		
10	R6. 6. 12	水	Ш	感染症対策 予習 教科書「公衆衛生」第13章を通読 復習 講義内容の復習	講義	中谷 淳子		
11	R6. 6. 19	水	Ш	食品保健・栄養 予習 教科書「公衆衛生」第16章-2を通読 復習 講義内容の復習	講義	仲野 宏子		
12	R6. 6. 26	水	Ш	学校保健 予習 教科書「公衆衛生」第14章を通読 復習 講義内容の復習	講義	仲野 宏子		
13	R6. 7. 3	水	Ш	産業保健 予習 教科書「公衆衛生」第15章を通読 復習 講義内容の復習	講義	加藤 貴彦 栗山 知子	2	
14	R6. 7. 10	水	Ш	国際保健 予習 教科書「公衆衛生」第16章を通読 復習 講義内容の復習	講義	河村 洋子		
15	R6. 7. 17	水	Ш	環境保健 予習 復習 講義内容の復習	講義	加藤 貴彦	2	